

普及教育事業

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招いている(**印)。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめ細かい普及教育活動を行うために、普及行事にボランティアによる補助スタッフを導入している(*印)。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前学習や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴であり、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。特に2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪市自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

近年、自然観察や、標本作りをする人が減少していると言われている。若い世代の標本作りや自然観察への支援を強化するために、今年度より一部の行事をリニューアルした。「夏休み自由研究相談会」をとりやめ、新たに「標本作りまつり」を行った。「標本の名前をしらべようー標本同定会ー」には、同定会講師による講義「達人による標本トーク」を新たに実施した(詳細は47ページ)。また、児童・生徒による夏休み自由研究や標本を展示する「夏休み自由研究・標本展」を行った(詳細は展覧事業40ページ)。今後も、若い世代の自然観察や標本作りを支援する普及行事や展示に力を入れて継続する予定である。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか省略した。行事の詳細は展覧事業36～39ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然の面白さを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

定員を超過した行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員して抽選率を緩和した行事

もある。また補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑の生き物」*、** 高槻市		
4月27日	申込143名(当選143名)	参加104名
「海べのしぜん」*、** 岬町長崎海岸		
5月18日	申込289名(当選289名)	参加218名
「はじめてのキノコ」*、** 東大阪市枚岡公園		
7月6日	申込210名(当選150名)	参加106名
「ツバメのねぐら」* 奈良市		
8月9日	申込216名(当選216名)	台風中止
「バッタのオリンピック」** 藤井寺市石川		
10月5日	申込141名(当選141名)	雨天中止
「はじめてのキノコ」* 東大阪市枚岡公園		
11月2日	申込132(当選123名)	雨天中止
「化石さがし」 泉佐野市		
12月7日	申込246名(当選204名)	参加183名
7回計画	4回実施	延べ参加者数611名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。

「ポンポン山」高槻市		
6月1日	申込84名(当選84名)	参加56名
「岩湧山」* 河内長野市		
10月12日(日)	申込60名(当選45名)	台風中止
2回計画	1回実施	延べ参加者数56名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸現象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。他の博物館施設や図書館、研究団体との共催が増えていく。

「公園のネコの観察」 長居公園		
4月6日	申込71名(当選71名)	参加45名
「テントウムシ」*、** 高槻市		
4月26日	申込42名(当選42名)	参加22名
(あくあびあ芥川と共催)		
「はじめてのバードウォッチング 春の渡り鳥を見つけよう」長居植物園(大阪府立図書館と共催)		
4月29日	申込152名(当選87名)	雨天中止
「ハッカチョウとムクドリを比べる」大阪市東淀川区～淀川区		
5月10日	申込47名(当選47名)	参加35名
「二上山の火山岩類」** 葛城市～香芝市		

6月8日	申込99名(当選51名)	参加42名
(地学団体研究会大阪支部と共催)		
「埋立地の帰化植物」* 大阪市舞洲緑地		
6月14日	申込28名(当選28名)	参加26名
「高槻のカエル探し」*、** 高槻市		
6月22日	申込151名(当選107名)	雨天中止
(あくあぴあ芥川と共催)		
「アカハネオンブバッタ」** 大阪市南港野鳥園		
9月28日	申込53名(当選53名)	参加38名
「鳴くシカの声聞く会」** 奈良市		
10月25日	申込60名(当選60名)	参加43名
「二上山の火山岩類」** 葛城市～香芝市		
10月26日	申込59名(当選58名)	参加50名
(地学団体研究会と共催)		
「川の地形と堆積物」 大阪市住吉区		
11月24日	申込37名(当選37名)	参加31名
「恐竜化石産地の地層と化石を調べよう」丹波市		
2月8日	申込98名(当選30名)	参加23名
(丹波竜化石工房ちーたんの館と共催)		
「大阪層群の地層と化石」岸和田市		
3月29日	申込74名(当選25名)	雨天中止
(きしわだ自然資料館と共催)		

13回計画 10回実施 延べ参加者数355名

■プロジェクトU都市の自然の調査

2011年度より都市の自然の調査プロジェクト(プロジェクトU)を実施した。市民参加で都市の自然を調べる企画であり、今年度の特別展「ネコと見つける都市の自然」でその成果を紹介した。今年度を実施した観察会は以下の通りである。

「大阪平野のボーリング標本調査」		
4月6日		14名
5月3日		14名
5月31日		14名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」		
4月5日	申込20名(当選20名)	参加15名
「ホネ標本の作り方」*、**		
8月10日	申込44名(当選37名)	台風中止
「ホネ標本の作り方(大人)」*、**		
9月28日	申込48名(当選26名)	参加22名
「樹脂包埋標本の作製1」		
10月26日	申込12名(当選12名)	参加8名
「平野の地下の地層の調べ方」		

11月2日	申込12名(当選12名)	参加13名
「樹脂包埋標本の作製2」		
11月30日	申込12名(当選12名)	参加6名
「解剖で学ぶイカの体のつくり」*		
2月1日	申込16名(当選16名)	参加13名
「マツボックリ」*		
2月15日	申込10名(当選10名)	参加4名
「魚のからだ」		
2月22日	申込14名(当選14名)	参加13名
9回計画 8回実施 延べ参加者数94名		

■長居植物園案内

第4土曜日に長居植物園で行う植物研究室の学芸員の案内による観察会。近年は参加者が多いため、補助スタッフによる観察の手引きが不可欠である。また、補助スタッフが自主的に学芸員による解説の記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。6、12、1、2月には、他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の植物園案内を行った。

4月26日*	参加87名
5月24日*	参加144名
6月28日「昆虫と植物」*	参加122名
7月26日*	参加42名
8月23日*	参加69名
9月27日*	参加88名
10月25日*	参加102名
11月22日*	参加75名
12月27日「木の実と鳥」*	参加119名
1月25日「球果実スペシャル」*	参加99名
2月28日「葉脈スペシャル」*	参加101名
3月28日*	参加90名
12回実施 延べ参加者数1138名	

■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第1土曜日に開催している。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」*	
4月26日	参加81名
「小さな甲虫いろいろ」	
5月3日	参加53名
「公園で繁殖する鳥」*	
6月7日	参加46名
「大池の生き物」	
7月5日	参加37名
「夏の昆虫たち」	
8月9日	台風中止

普及教育事業

「秋の渡り鳥」*	
9月6日	参加58名
「秋の羽根ひろい」*	
10月4日	参加50名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」*	
11月1日	雨天中止
「冬越しの虫さがし」	
12月6日	参加47名
「公園の冬鳥」	
1月10日	参加64名
「冬の羽根ひろい」*	
2月7日	参加64名
「花にくる鳥」*	
3月7日	参加33名

10回実施 延べ参加者数533名

■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。原則として、毎月第三土曜日の午後1時～2時30分に、当館集会室で開催。夏から秋には、特別展に関連して都市の自然に関するテーマで5回実施した。8月は特別展「ネコと見つける都市の自然」の普及講演会、3月は特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」のオープニング講演会を兼ねた。

「ラミディア大陸の恐竜」	
4月19日	参加89名
「中生代の植物の移り変わり」	
5月17日	参加30名
「都市の地形と地盤」	
6月21日	参加56名
「カラスから見た都市の自然」 「高木化する公園の樹木」	
7月19日	参加79名
「田舎のネコと街のネコ」**	
8月16日	参加154名
「都市に残る自然と植物」	
9月20日	参加47名
「都市の甲虫相」 「移入種アカハネオンブバッタ」	
10月11日	参加37名
「アサギマダラなどの長距離移動蝶は日本海周辺を移動するか」	
12月20日	参加37名
「菌類学講座」**	
1月17日	参加65名
「果実と種の多様性」	
2月21日	参加50名
「スペイン 奇跡の恐竜たち」**	
3月21日	107名

11回実施 延べ参加者数751名

■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事のなかでは、初・中級向け。原則として第2土曜日の午後に行っている。

「様々な恐竜化石を見てみよう」*

4月12日 参加61名

「中生代の森の植物」*

5月10日 参加52名

「裸子植物の化石」*

6月14日 参加35名

「海の砂を見てみよう」*

7月12日 参加39名

「石ころ調べ」*

8月9日 参加21名

「葉っぱの化石」*

9月13日 参加34名

「珪藻の化石を見てみよう」*

10月18日 参加15名

「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」*

11月8日 参加17名

「絶滅動物の病気を調べよう」*

12月13日 参加37名

「防災地図を作ってみよう」*

1月10日 参加28名

「褶曲のモデル実験」*

3月14日 参加27名

11回実施 延べ参加者数366名

■標本作りまつり*

前年度まで行っていた「夏休み自由研究相談会」をリニューアルした行事である。小学生から大人までを対象とし、1日で昆虫・植物・動物（鳥の羽根と貝）の標本作りを体験することができるようにした。さらに、キノコ標本づくり、植物化石のクリーニング、鳥の剥製づくり、岩石の割り方を見学できるブースを設定した。この行事で標本作りを体験し、夏休みに自分でも実際にやってみて、「標本の名前をしらべよう」で講師と一緒に種名を調べて夏休みの自由研究を完成させることが可能である。また、作成した標本や自由研究を、「夏休み自由研究・標本展」（42ページ）で展示して多くの人に見てもらえることができる。

今年度は初めての実施だったため、参加人数が非常に多く、標本作りをあきらめた参加者が見られた。事

前申込みにするなど、次年度以降は実施方法を変更する必要がある。

日時：7月21日（月・祝）

場所：自然史博物館 講堂、集会室、実習室、
ミュージアムサービスセンター、玄関前
ポーチ

参加人数：310名

■標本の名前を調べよう & 達人による標本トーク*、**

児童生徒が夏休みに採取して作成した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。生き物や化石・岩石の名前をしらべることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探究心を育てることをねらいとしている。子どもだけでなく、大人の参加も多い。館外から多数の専門家に講師として参加していただき、8月下旬に実施している。今年度は、講師に自身が専門とする分野の標本作りや標本から分かることについてお話いただく「達人による標本トーク」を、ミュージアムサービスセンターにおいて行った。

なお、この行事の効果を高めるため、夏休みの始めに「標本作りまつり」（7月21日）を行った。

日時：8月24日（日）

場所：自然史博物館 集会室、実習室、会議室、
ミュージアムサービスセンター

件数：88件

参加者数：118名

■講演会・シンポジウム・実習（学会等と共催）

学会などと共催した講演会やシンポジウム・実習を開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展普及講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

貝類学会公開講演会「追うヘビ、逃げるカタツムリの
右と左の共進化」

4月13日 参加208名

博物館・センター報告会

4月26日 参加117名

第31回地球科学講演会（日本地質学会近畿支部・地学
団体研究大阪支部）「プレートの沈み込みと国土形成」

5月25日 参加125名

菌学会中・高生向け実習講座（キノコとカビから始める
バイオサイエンス）

8月22日 参加21名

すげの会「スゲ属（カヤツリグサ科）植物分類勉強会」

11月2日 参加35名

日本昆虫学会近畿支部・日本鱗翅学会近畿支部合同大
会「昆虫学公開研究発表会」

12月14日 参加89名

関西自然保護機構総会「地域自然誌と保全研究発表会」

3月1日

参加185名

■はくぶつかん・たんけん隊*

実験室や収蔵庫などのバックヤードを中心とする館内見学行事。普段は見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味をそだてることをねらいとしている。2008年度からタイトルを変更し、対象を小学生から小中学生に広げた。参加者とは別枠で、参加者の家族（保護者や未就学児）を対象に、ガイドランスとバックヤードショートツアーを行った。

1月11日（日）・12日（月祝） 申込79名 参加68名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2015年3月31日現在の部員数は72名。

●2014年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング」	4月2日	27名
「溪流の生きものさがし」	5月6日	24名
「磯観察」	6月15日	12名
「川遊びしてスッポン探し」	7月20日	10名
「ミーティング」	8月7日	18名
「キノコ狩り 星田園地」	9月15日	16名
「奈良公園のリスとシカ探し」	10月26日	14名
「五月山と五月山動物園」	11月3日	6名
「ミーティング・フェスティバルの準備」	11月9日	9名
「メタセコイアとゾウの足跡」	12月14日	15名

普及教育事業

「河原で焼き芋」	1月5日	7名
「琵琶湖博物館」	2月1日	14名
「屯鶴峯とサヌカイト」	3月26日	11名

13回計画 13回実施 参加者数のべ183名

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。

2007年から、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名程度募集し研修を実施した上で、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと一緒にオリジナルプログラムを製作、3月の「はくぶつかん 子どもまつり」において実施してもらった。特別展開関連行事として行ったワークショップについての詳細は、展覧事業36ページからの各特別展の関連行事を参照のこと。

「クジラスタンプラリー」		
5月5日・6日		参加972名
「ながいるかな まちのなか」		
6月14日・15日		参加101名
「はかってビックリ！大きな生きもの」		
9月20日・21日		参加112名
「じっけん タネたねハカセ」		
10月4日・5日、11月8日・9日		参加97名
「ふゆのおちば」		
12月13日・14日		参加65名
「びっくり変態！むしムシ親子」		
1月17日・18日、2月21日・22日		参加159名
「はくぶつかん 子どもまつり」		
3月28日・29日		参加206名
35日実施 延べ参加者数2428名（特別展開関連含む）		

II. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の14大学、のべ24名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏 期：9月3日～9月7日 10名

貞國利夫（八洲学園大学）、山本友里（甲南女子大学）、嶋 耀子（京都府立大学）、田中夏季（京都精華大学）、里見駿太・千田海帆・井上弘貴・大塚啓太郎（近畿大学）、井上 誉（龍谷大学）、山上繁政

（滋賀県立大学）

秋 期：10月15日～19日 13名

寺山佳奈（高知大学）、中西亮太（京都教育大学）、中園美紀（日本大学）、藤原英明（追手門学院大学）、小林正幸（京都府立大学）、森本 然・佐藤真央（琉球大学）、中西篤樹（龍谷大学）、谷口 龍・松井佑希子・村上美雪・横村尚子（神戸大学）、半田和正（滋賀県立大学）

普及教育専攻コース

冬 期：1月10～12日・24～25日 1名

越田 有（北海道大学）

III. 各種研修

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となり、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

IV. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしなが

ら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」、「都市の自然」では、中学生・高校生向けのワークシートを作成し、春夏の課題として学校へと案内した。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている。（長居植物園は除く）。

2014年度は保育所・幼稚園1件、小学校10件、中学校6件、高校7件、大学2件、専門学校2件、合計28件の授業を行った。

2014年度の授業例：「生物と環境のかかわり」、「植物のサイクル」、「環境によるほ乳類の骨格の違い」、「虫の体」、「大阪平野のおいたち」など。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2014年度は、大阪府内の中学校4件、視覚支援学校高等部1件（計7人）を受け入れた。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

春の下見集中時に合わせ、隣接する長居植物園の教員向け案内行事を行い、遠足で来るときの植物観察の参考にしてもらえるようにしている。4月7日、8日に実施した。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2014年度は、博物館の出版物等書籍22件、ビデオ・CD-ROM・DVD22件、紙芝居38件、標本キット31件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：蝶・蛾の世界、昆虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、ボーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目標としている大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方、自然観察会の指導している方を対象に研修を行っている。これら以外に、各地の理科教育研究会等からの依頼教員研修を7件行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum



図3. タンポポキット

Network) をつくっている。118名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

＜その他＞

・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月8日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市・大阪府の研修の一つとして、大阪教育大学が実施するコアサイエンスティーチャーの授業としても位置づけ、また、他館（あくあびあ芥川、海遊館、天王寺動物園、国立科学博物館など）からもブース出展してもらい、109名の参加があった。

プログラム 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1：長居植物園で学ぶ日本の植物群系、学芸員と一緒に歩く解説ツアー2：特別展で学ぶ都市の自然の生態系、学芸員と一緒に歩く解説ツアー3：常設展で学ぶ「動物のホネ」、体験型プログラム1：無脊椎動物（イカ）の体、体験型プログラム2：虫の体、体験型プログラム3：ぐるぐる消しゴムアンモナイトなど。

※教員のための博物館の日はJSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受けて実施した。

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2014年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科・国語、中学校の

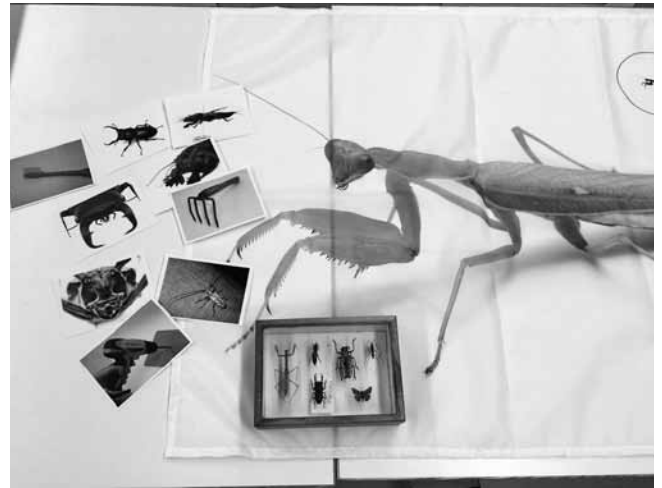


図4. 虫の体キット03

社会科（地理・歴史・公民）・理科（第2分野）・国語・家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習などの資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。今年度は、JSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受け、全面リニューアルを行い、利用しやすいようにデザインを改めた。特に、「学習を深めるために」のコーナーに掲載した「教科書から見た展示」を今年度の指導要領に合わせて更新し、整理するとともに、国語（小・中学校）や中学校の家庭科・技術・保健体育にも対応できるようにした。また、それぞれの学習に対応するワークシートや貸出キットの有無を対応表に追加した。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本館1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・今年度は平成26年度科学博物館活動等助成事業を受け、ボーリングコアを貸し出し標本として運用すると同時に指導案やワークシートを作成し研究授業を行い、その教育効果の検証を行った。また、JSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受け、国語で使える貸出キット（「タンポポ（図3）」と「虫の

体(図4)」の2種)を開発した。

V. 大阪自然史フェスティバル 2014

大阪市立自然史博物館、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、関西自然保護機構の3団体の主催のもと、多くの出展団体の参加を得て2014年11月15～16日に盛大に開催された(カラー口絵参照)。

なお、過去のフェスティバルなどの出展者数、参加者数の推移は表2のとおりである。

●出展団体108、出展ブース100

●来場者数

11月15日(土) 10,500名

11月16日(日) 12,800名

合計23,300名

●主な関連イベントと参加者数

■シンポジウム「森に生きる不思議なサギ ミゾゴイ
～その暮らしを知り、保護を考える～」

日時：11月15日(土) 13:00～15:30

主催：日本野鳥の会大阪支部

基調講演「ミゾゴイの魅力～分かってきた生態と習性～」川名国男氏(ミゾゴイ研究会代表)

報告「新梅田シティのミゾゴイを密着追跡した3日間～採餌行動を中心に～」納家 仁氏(日本野鳥の会大阪支部)

パネルディスカッション「ミゾゴイを守るために 現状と課題」

パネリスト：川名国男氏、納家 仁氏、橋本正弘氏
(大阪府鳥獣専門員)

参加：151名

■講演会「大震災が東北太平洋沿岸域に及ぼした影響
とその後のベントスの回復状況」

日時：11月16日(日) 10:30～12:00

主催：大阪湾海岸生物研究会

講師：鈴木孝男氏(東北大学大学院生命科学研究科)

参加：55名

■2010年代の里山管理シンポジウムⅡ「薪のある暮らしは何を変えるのか」

日時：11月16日(日) 13:00～16:30

主催：大阪自然史センター(二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金「地域における草の根活動支援事業」として)

「里山管理は二酸化炭素排出抑制と生物多様性の二兎を追えるのか」

佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)

「里山はなぜ管理を必要とするか」

大住克博氏(鳥取大学)

「薪で変える里山と社会の関係」

奥敬一氏(富山大学)

「薪ストーブのある暮らし」

中田兼介氏(京都女子大学)

「芸北せどやま再生事業の担うもの」

白川勝信氏(北広島町芸北高原の自然館)

総合討論

参加：93名

■谷口高司のたまご式鳥絵塾

5回実施 のべ参加者数75名

■叶内拓哉 野鳥の話 アレコレ

参加 43名

■叶内拓哉“350mm/500mm/850mm超望遠撮影体験”

参加 40名

■はじめての鳥みたい(隊)

2回実施 のべ参加者数151名

■植物園の小さな秋を見つけよう

4回実施 のべ参加者数102名

表2. 過去のフェスティバルなどの参加者数と出展数

	タイトル	参加者数	出展数
1	大阪自然史フェスティバル2003	20,000	85
2	大阪自然史フェスティバル2004	15,000	81
3	大阪自然史フェスティバル2006	19,300	85
4	大阪バードフェスティバル2007	16,000	57
5	かんさい自然フェスタ2008	10,050	73
6	大阪自然史フェスティバル2009	13,000	89
7	大阪バードフェスティバル2010	18,300	47
8	大阪自然史フェスティバル・リミテッド2011	12,200	54
9	大阪自然史フェスティバル2012	17,300	98
10	大阪バードフェスティバル2013	16,700	65
11	大阪自然史フェスティバル2014	23,300	108
*	ホネホネサミット2009	8,300	37
*	ホネホネサミット2011	11,100	50
*	ホネホネサミット2014	3,000	47

VI. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に行事を44回の行事を実施し、延べ2,694名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の

普及教育事業

交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

- 2014年度の会員数は1,691名（一年会員1,426名、4月会員86名、半年会員87名、10月会員29名、賛助会員63名）であった。

※2013年賛助会員（五十音順、敬称略）

麻野 浩、安部みき子、天野雅雄、池上研二、石井久夫、石田美禰子、乾 公正、猪野 守、岩佐果林、浦野動物病院、大岩 誠、大久保幸子、大宮文彦、岡和田 齊、檉根 妙、加藤江理子、呉華璋、粉川正博、小郷一三、小菅康孝、小山 栄、佐々木万里子、佐竹敦司、佐藤興治、寫田由紀、清水直樹、釋知恵子、白川勝正、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、瀧端真理子、田代 貢、田村美美子、土屋慶丞、寺田雅章、豊島邦光、内貴章世、中井悦子、中尾はな、中村 肇、西尾秀雄、西川喜朗、西村静代、丹波三千代、野村典子、橋本由紀子、樋渡諦児、益田晴恵、松浦宜弘、松下宏幸、丸山健一郎、宮城達雄、三宅規子、宮武頼夫、森口 猛、山崎敏雄、山下良寛、山西良平、米澤里美、和田 岳、匿名2名

- 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。
- 事業ワーキンググループで事業に関する議論を11回行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは評議員だけでなく、一般会員からも募っている。

■事業報告

- 印刷物の刊行：Nature Study誌60巻1号（通巻716号）～12号（通巻727号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
- 自然史フェスティバル（11月15～16日）に出展し、評議員による観察会「植物園の小さな秋を見つけよう」、バッジ作り、友の会の紹介、入会の案内を行った。
- 行事を47回計画し、うち44回を実施した。延べ2,694名の参加があった。

- 友の会総会2013

1月26日（日）	274名
----------	------
- 月例ハイキング（9回614名）

1月19日（日）高槻市川久保から本山寺	39名
2月16日（日）動物園で生物の進化を探る	120名
3月30日（日）春の磯で海藻を食べよう！	雨天中止
5月18日（日）京都・深泥池の植物	46名

- | | |
|------------------------------|------|
| 6月15日（日）妙見山周辺の雑木林 | 69名 |
| 7月20日（日）木津川に沿って大河原から笠置へ | 50名 |
| 8月17日（日）市大植物園（私市） | 65名 |
| 9月13日（土）ウミホテル | 125名 |
| 11月30日（日）生駒山系高安地区で虫の死体をさがそう！ | 56名 |
| 12月21日（日）佐紀古墳群を訪ねて | 44名 |
- 友の会まつり

友の会春祭り	
4月20日（日）大池の生き物しらべ	157名
友の会秋祭り	
10月19日（日）海からの贈り物・人からの落とし物2014	244名
 - 4月19日（土）友の会春祭り準備 セルビンつくり

	50名
--	-----
 - 友の会限定！収蔵庫見学ツアー

2月9日（日）	32名
2月11日（火・祝）	75名
 - 友の会の夕べ

7月19日（土）	98名
----------	-----
 - 友の会合宿

7月19日（土）～20日（日）滋賀県マキノ	43名
8月1日（金）～3日（日）蒜山・大山	46名
5月3日（土）～5日（月祝）小豆島	60名
 - 韮公園のセミのぬけがら調べ

9月6日（土）	104名
---------	------
 - 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム

7月26日（土）～27日（日）	96名
-----------------	-----
 - シカがいるかもナイトハイク

6月7日（土）～8日（日）	27名
---------------	-----
 - 八雲ヶ原ハイキング

6月22日（日）	雨天中止
----------	------
 - 海の向こうの見聞録発表会、友の会懇親会

12月27日（土）	89名
-----------	-----
 - 平日行事

5月12日（月）紫金山公園	12名
11月21日（金）街中の自然散歩 天下茶屋から生國魂神社	54名
 - クモの網のパネルづくり

6月29日（日）	41名
----------	-----
 - 裏庭ビオトープの日（10回373名）

1月18日（土）	16名
2月15日（土）	雨天中止
3月15日（土）	46名
4月19日（土）	70名
5月17日（土）	96名

6月21日（土）	34名
7月19日（土）	21名
8月16日（土）	14名
9月20日（土）	39名
10月18日（土）	32名
12月20日（土）	5名
(16) 鳥類フィールドセミナー（9回205名）	
1月18日（土）	26名
2月15日（土）	21名
3月21日（土）	32名
4月19日（土）	28名
5月31日（土）	23名
8月2日（土）	3名
8月30日（土）	31名
9月27日（土）	21名
12月20日（土）	20名

■役員（2014年）

会 長：西川喜朗

副 会 長：谷田一三、山西良平

評 議 員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代 貢、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、堀田 満、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森 康貴、山崎俊哉、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一